

ボイラー及び附帯設備等の運転・保全業務作業基準書

1 ボイラー設備の運転管理業務

(1) ボイラー設備の運転管理業務

始業前の点検

ア 薬品類の確認

ボイラーソルト、清缶剤が適正量入っているか確認する。

イ 軟水器の確認

硬度指示薬により軟水になっているか確認する。

ウ ボイラー水位確認

ボイラー内の水位計にて水位を確認する。

ボイラー運転

午前7：30頃

ボイラー点検チェックシートの記入

ア ラインポンプのスイッチを入れる。

(隔日交代で使用する号機を変える)

イ 運転させるボイラーの給水コックを開ける(ガスコックは常時開のまま)

ウ 運転スイッチを押す。

操作パネルより燃焼確認

エ スチームヘッダーに入るバルブ(No.1、No.2 主蒸気)を開ける

オ ドレンバルブを閉める。

カ バルブを開ける

ホットウェルタンクバルブ、ストレージタンクバルブ、調理室

(冬場には熱交換器のバルブも開ける)

午前11時30分頃

中圧ガスメーターにてガス使用量の確認をする。

キ 洗浄室バルブ、保管庫バルブを開ける。

ク 調理室バルブを閉める。

午後5時10分頃

ケ 運転スイッチを切る。

コ ラインポンプを切る。

サ バルブを閉める。

ホットウェルタンクバルブ、ストレージタンクバルブ、洗浄室バルブ、保管庫バルブ
シ 主蒸気バルブを閉める。
ス 湯、水メーターより使用量を確認する。

(2) ボイラー保全業務

ブロー (運転前作業)

ア ブロー表示の確認

イ ボイラーを始動させ、圧力を $1.0 \sim 2.0 \times 0.1\text{MPa}$ くらいに上げ、運転を停止する。

ウ ブローコックを徐々にあけ、水を抜く (約 10 分間)

エ 表示パネルの「 B 」の表示が消えたことを確認したらブローコックを閉める

オ 運転スイッチを入れ、燃焼状態を確認する。

当日使用しないボイラーにブロー表示が出た場合、翌日の作動時にブローを行う。

長期休業時の作業

ア 給水ストレーナーの分解清掃を行う。

イ 蒸気配管およびエルボの異常の確認を行う。

ボイラー異常表示時の対応

ア ボイラーの異常表示、異常音等が出ていたら、すぐに、平塚市教育委員会へ報告すること。

2 ストレージタンク (第一種圧力容器) の運転管理業務

(1) ストレージタンクの運転管理業務

作業前

ア 圧力容器定期自主検査表を基に点検を行う

イ ドレンバルブをボイラー起動後 (ストレージタンクバルブ開後) 配管内の水が抜けたのを確認し閉める。

作業後

ア ボイラー運転停止後 (ストレージバルブ閉後) ドレンバルブを開ける

3 空調設備の運転管理業務

(1) 空調設備の運転管理業務

夏季

ア 冷温水ポンプスイッチを入れる。

- イ クーリングタワースイッチを入れる。
- ウ 冷却水ポンプスイッチを入れる。
- エ チーリングユニットスイッチを入れる。

冬季

- オ 冷温水ポンプスイッチを入れる。
- カ 熱交換器バルブを開ける。

(2) 空調設備の保全業務

- ア 夏季、冬季で冷水、温水を切り替える。
- イ 空調機のフィルターを清掃する。
- ウ クーリングタワーの清掃をする。